

さとうきび増産に向けた取組の実績及び評価

沖縄県南大東島

増産プロジェクトにおける令和6年産生産計画の達成状況及び今後の取組状況													
生産計画の達成状況等	1 令和6年産の生産実績												
		収穫面積 (ha)				単収 (kg/10a)				生産量 (t)			
		夏植	春植	株出	計	夏植	春植	株出	計	夏植	春植	株出	計
	H29年産実績	64	183	935	1,183	6,552	4,891	4,903	4,991	4,220	8,961	45,865	59,045
	H30年産実績	46	209	948	1,203	9,308	7,031	7,196	7,248	4,295	14,694	68,192	87,181
	R元年産実績	62	221	991	1,274	11,742	7,645	8,041	8,151	7,221	16,896	79,703	103,820
	R2年産実績	54	169	1,073	1,297	12,050	7,352	8,108	8,174	6,520	12,455	87,023	105,998
	R3年産実績	44	196	1,062	1,302	9,144	6,162	6,202	6,296	4,044	12,071	65,853	81,968
	R4年度実績	54	173	1,093	1,320	10,607	6,092	6,443	6,569	5,779	10,549	70,422	86,750
	R5年増産実績	33	172	1,116	1,320	7,526	5,145	5,338	5,367	2,463	8,829	59,578	70,869
	R6年増産計画	85	250	910	1,245	9,332	5,027	5,658	5,782	7,932	12,568	51,490	71,990
	R6年増産実績	46	185	1,127	1,358	12,593	7,724	14,322	8,143	5,842	14,322	90,447	110,611
	(対計画比%)	(54.6)	(74.2)	(123.8)	(109.1)	(134.9)	(153.7)	(253.1)	(140.8)	(73.6)	(114.0)	(175.7)	(153.6)
	(対前年比%)	(141.7)	(108.0)	(100.9)	(102.9)	(167.3)	(150.1)	(268.3)	(151.7)	(237.2)	(162.2)	(151.8)	(156.1)
	R7年産増産計画	150	250	850	1,250	6,100	5,400	5,200	5,300	9,100	13,500	44,200	66,800
2 その他指標の動向 令和5年産→令和6年産													
・株出栽培の割合		84.5%	→	82.9%	・さとうきび作農家戸数		262戸	→	262戸				
・平均糖度		14.3度	→	13.4度									

増産目標に対する位置づけ	<p>令和6年産 生産計画及び実績については、以下のとおりであった</p> <table border="1" data-bbox="448 223 1164 335"> <thead> <tr> <th></th> <th>収穫面積</th> <th>単収</th> <th>生産量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(計画)</td> <td>1,245ha</td> <td>5,782kg/10a</td> <td>71,990t</td> </tr> <tr> <td>(実績)</td> <td>1,358ha</td> <td>8,143kg/10a</td> <td>110,611t</td> </tr> </tbody> </table> <p>令和6年の生産目標は、収穫面積1,250ha、単収6.4t/10a、生産量71,990tを計画し、実績では、生産面積1358ha、反収8.1t/10a、生産量110,611tとなった。</p> <p>例年に比べ台風被害の影響が軽微であったことや、夏季期間でのまとまった雨量、適切な防除活動等により、近年平均値を大きく上回る生産実績となった。反収は8.1tと前期5.3tを上回る結果となり増収となった。</p> <p>令和7年産は、増産目標を73,330tと設定し、干ばつ対策、病害虫防除等の肥培管理の徹底を引き続き呼びかけていく。</p>		収穫面積	単収	生産量	(計画)	1,245ha	5,782kg/10a	71,990t	(実績)	1,358ha	8,143kg/10a	110,611t
	収穫面積	単収	生産量										
(計画)	1,245ha	5,782kg/10a	71,990t										
(実績)	1,358ha	8,143kg/10a	110,611t										
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 除草管理不足ほ場が病害虫発生源となっているため、管理指導を行う必要がある ・ 大型機械化一貫作業体系が進む中、有機質のほ場への還元が必要である ・ 干ばつ時の水源確保 ・ 畑地の主要土壌が国頭マージで地力の低い強酸性となっている 												
令和6年産における取組方針	<p>主なさとうきび生産振興策として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ハリガネムシの交信かく乱及び雑草除去や直後の灌水の推進、病害虫防除を徹底していく ・ 株出複合管理機の有効活用による単収の向上 ・ 酸度矯正や堆肥の導入などによる土壌改良資材の投入 ・ 水源確保のための自然池の整備、全ほ場がかん水を行えるようなパイプラインの工事 												

(1)経営基盤の強化

項目	取組実績及び課題	今後の取組方向																																																						
<p>①効率的な さとうきび経営 の育成と労働 力の確保</p>	<p>【実施した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海水淡水化装置で作成した水のマリンタンク・貯水池への送水体制の確立 <p>【目標の達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="432 416 1422 576"> <thead> <tr> <th></th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>認定農業者</td> <td>89</td> <td>90</td> <td>92</td> <td>92</td> <td>94</td> <td>64</td> <td>62</td> <td>62</td> </tr> <tr> <td>農業法人</td> <td>7</td> <td>6</td> <td>3</td> <td>9</td> <td>9</td> <td>9</td> <td>9</td> <td>10</td> </tr> </tbody> </table> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・揚水量に対し中間槽内の水量がやや低く、動力出力の調整が必要となる。 		H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6	認定農業者	89	90	92	92	94	64	62	62	農業法人	7	6	3	9	9	9	9	10	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き海水淡水化事業を継続するとともに、2年目はほ場かん水体制の確立を目指す 																											
	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6																																																
認定農業者	89	90	92	92	94	64	62	62																																																
農業法人	7	6	3	9	9	9	9	10																																																
<p>②農業共済制 度への加入促 進</p>	<p>【実施した取組】</p> <p>【目標の達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="432 895 1422 1273"> <thead> <tr> <th></th> <th>H29 (30年産)</th> <th>H30 (R元年産)</th> <th>R元 (R2年産)</th> <th>R2 (R3年産)</th> <th>R3 (R4年産)</th> <th>R4 (R5年産)</th> <th>R5 (R6年産)</th> <th>R6 (R7年産)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>加入戸数 (戸)</td> <td>152</td> <td>135</td> <td>122</td> <td>90</td> <td>90</td> <td>71</td> <td>61</td> <td>58</td> </tr> <tr> <td>戸数引受率 (%)</td> <td>63.1</td> <td>54.0</td> <td>48.2</td> <td>35.2</td> <td>42.1</td> <td>27.7</td> <td>23.9</td> <td>22.9</td> </tr> <tr> <td>引受面積 (ha)</td> <td>857</td> <td>745</td> <td>596</td> <td>447</td> <td>448</td> <td>358</td> <td>296</td> <td>287</td> </tr> <tr> <td>面積引受率 (%)</td> <td>71.2</td> <td>58.5</td> <td>45.9</td> <td>34.3</td> <td>49.8</td> <td>27.5</td> <td>22.4</td> <td>22.2</td> </tr> <tr> <td>共済金額 (千円)</td> <td>682,751</td> <td>561,843</td> <td>546,029</td> <td>488,795</td> <td>404,563</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">注) R4~R6年産の数値については概算値</p> <p>【課題】</p>		H29 (30年産)	H30 (R元年産)	R元 (R2年産)	R2 (R3年産)	R3 (R4年産)	R4 (R5年産)	R5 (R6年産)	R6 (R7年産)	加入戸数 (戸)	152	135	122	90	90	71	61	58	戸数引受率 (%)	63.1	54.0	48.2	35.2	42.1	27.7	23.9	22.9	引受面積 (ha)	857	745	596	447	448	358	296	287	面積引受率 (%)	71.2	58.5	45.9	34.3	49.8	27.5	22.4	22.2	共済金額 (千円)	682,751	561,843	546,029	488,795	404,563	-	-	-	
	H29 (30年産)	H30 (R元年産)	R元 (R2年産)	R2 (R3年産)	R3 (R4年産)	R4 (R5年産)	R5 (R6年産)	R6 (R7年産)																																																
加入戸数 (戸)	152	135	122	90	90	71	61	58																																																
戸数引受率 (%)	63.1	54.0	48.2	35.2	42.1	27.7	23.9	22.9																																																
引受面積 (ha)	857	745	596	447	448	358	296	287																																																
面積引受率 (%)	71.2	58.5	45.9	34.3	49.8	27.5	22.4	22.2																																																
共済金額 (千円)	682,751	561,843	546,029	488,795	404,563	-	-	-																																																

(2)生産基盤の強化

項目	取組実績及び課題								今後の取組方向																																				
<p>①気象災害に強い生産基盤の整備</p>	<p>【実施した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新植及び夏期のかん水に対し防災無線等で呼びかけを行った ・早期植付・肥培管理等を行い、梅雨時期の生育を促進した <p>【目標の達成状況】 (単位:%)</p> <table border="1" data-bbox="432 483 1422 751"> <thead> <tr> <th></th> <th>H29 実績</th> <th>H30 実績</th> <th>R元 実績</th> <th>R2 実績</th> <th>R3 実績</th> <th>R4 実績</th> <th>R5 実績</th> <th>R6 見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ほ場整備率</td> <td>49.6</td> <td>51.1</td> <td>51.8</td> <td>51.8</td> <td>51.9</td> <td>51.9</td> <td>51.9</td> <td>51.9</td> </tr> <tr> <td>水源整備率</td> <td>25.3</td> <td>26.5</td> <td>27.8</td> <td>27.8</td> <td>27.8</td> <td>27.8</td> <td>27.8</td> <td>27.8</td> </tr> <tr> <td>畑地かんがい整備率</td> <td>12.2</td> <td>12.2</td> <td>12.2</td> <td>12.2</td> <td>12.2</td> <td>12.2</td> <td>12.2</td> <td>12.2</td> </tr> </tbody> </table> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かん水資材等の設備投資に負担が大きく、また設置や撤去の労働力の低下により稼働率が低下 ・干ばつの際かん水できないほ場の収量低下 ・早期植付を推進しているが、製糖終了の遅れなどにより、肥培管理や春植の遅れに伴う被害増が懸念 									H29 実績	H30 実績	R元 実績	R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 見込	ほ場整備率	49.6	51.1	51.8	51.8	51.9	51.9	51.9	51.9	水源整備率	25.3	26.5	27.8	27.8	27.8	27.8	27.8	27.8	畑地かんがい整備率	12.2	12.2	12.2	12.2	12.2	12.2	12.2	12.2	<p>・すべてのほ場がかん水できるわけではないため、干ばつ対策として、自然池から貯水地へのパイプライン設置工事を行いそこからほ場へ繋げる</p> <p>・早期植付・肥培管理等を行い、梅雨時期に生育を促し、自然災害への被害軽減に繋げる</p> <p>・セーフティネット事業で被害回復に努める</p>
	H29 実績	H30 実績	R元 実績	R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 見込																																					
ほ場整備率	49.6	51.1	51.8	51.8	51.9	51.9	51.9	51.9																																					
水源整備率	25.3	26.5	27.8	27.8	27.8	27.8	27.8	27.8																																					
畑地かんがい整備率	12.2	12.2	12.2	12.2	12.2	12.2	12.2	12.2																																					

<p>②機械化一貫体系の確立</p>	<p>【実施した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大型機械化収穫一貫体型が確立され、新品種導入への対応なども進んでいる ・ここ数年では収穫後に概ね1週間以内に株出し複合管理機による受託作業が定着しており、早期管理で単収の向上にもつながっている <p>【目標の達成状況】 (単位:台、ha、%)</p> <table border="1" data-bbox="432 416 1422 691"> <thead> <tr> <th></th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ハーベスタ 稼働台数</td> <td>23</td> <td>24</td> <td>23</td> <td>28</td> <td>24</td> <td>26</td> <td>21</td> <td>22</td> </tr> <tr> <td>ハーベスタ 収穫面積</td> <td>1,182</td> <td>1,202</td> <td>1,273</td> <td>1,297</td> <td>1,302</td> <td>1,321</td> <td>1,320</td> <td>1,358</td> </tr> <tr> <td>ハーベスタ 収穫率(面積)</td> <td>99.9</td> <td>100.0</td> <td>100.0</td> <td>100.0</td> <td>100.0</td> <td>100.0</td> <td>100.0</td> <td>100.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収穫機械の老朽化により新規導入が必要だが、価格高騰により購入が厳しい状況である ・運搬車の老朽化により新規導入が必要だが、国内で4WDの8t限定トラックは特殊な車両のため、新規購入が困難 ・運転免許の制限があるため新たなトラック運転手を雇用することが困難 		H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6	ハーベスタ 稼働台数	23	24	23	28	24	26	21	22	ハーベスタ 収穫面積	1,182	1,202	1,273	1,297	1,302	1,321	1,320	1,358	ハーベスタ 収穫率(面積)	99.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	<ul style="list-style-type: none"> ・単収や地区を考慮した上で中型機械と大型機械をうまく使い分け、可能な限りほ場内の収穫ロスを軽減する ・製糖期等の繁忙期における労働力を生産農家から確保し対応したい ・機械士協議会を中心に、農業機械士技能向上研修等に積極的に参加させ、オペレータの育成に努める
	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6																														
ハーベスタ 稼働台数	23	24	23	28	24	26	21	22																														
ハーベスタ 収穫面積	1,182	1,202	1,273	1,297	1,302	1,321	1,320	1,358																														
ハーベスタ 収穫率(面積)	99.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0																														
<p>③地力の増進</p>	<p>【実施した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・製糖工場からのバカスケーキやトラッシュ等をほ場へ還元 ・堆肥投入等を積極的に推進し、ほ場の地力の増進を図った ・土地改良事業において、島外から堆肥を導入することで、堆肥不足を補った <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バカスケーキの投入について散布費の農家負担が大きい ・夏植面積が減少していることで、植付までに土壌改良が可能なほ場が少なくなっている ・島内には畜産農家がほとんどなく、島内産の堆肥確保が出来ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・工場からのバカスケーキやトラッシュ等の投入を計画的に行えるよう検討する ・かぼちゃ等の野菜との輪作体系を推進し、夏植面積増加を図る ・バカス、トラッシュ、危険木等を破碎した木材チップ、水草を活用した土壌改良材の投入を行う 																																				

(3)技術対策

<p>①病害虫対策</p>	<p>【実施した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハリガネムシの交信かく乱による防除を継続した ・メイチュウ類・ガイダー・バッタ等の適期防除及び除草の徹底を呼びかけた <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メイチュウ類については被害が収まらない状況なので、対策が急務である ・農薬による防除も推進しているが、価格高騰により農家の負担が年ごとに増えている ・ハリガネムシの密度軽減が進む中、交信かく乱事業の継続が必要である 	<ul style="list-style-type: none"> ・交信かく乱による事業は継続が必要であり、国・県へ要望をした上で、防除に対する農家の意識向上を徹底させる ・ハリガネムシフェロモンチューブの防風林帯等へのドローン散布を検討する ・病害虫大量発生時に大型防除機での害虫防除を行う 																																																															
<p>②優良品種の選択・普及</p>	<p>【実施した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高収量、早期高糖性品種の選抜を製糖工場を中心として行っている ・種苗管理センターからの種苗を配布することで、優良種苗の増殖を普及 <p>【目標の達成状況】 (単位:%)</p> <table border="1" data-bbox="432 762 1420 1075"> <thead> <tr> <th></th> <th>H29 (実績)</th> <th>H30 (実績)</th> <th>R元 (実績)</th> <th>R2 (実績)</th> <th>R3 (実績)</th> <th>R4 (実績)</th> <th>R5 (実績)</th> <th>R6 (実績)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>F161</td> <td>5.4</td> <td>3.9</td> <td>3.1</td> <td>2.1</td> <td>0.8</td> <td>0.4</td> <td>0.4</td> <td>0.1</td> </tr> <tr> <td>農林15号</td> <td>2.2</td> <td>0.7</td> <td>2.0</td> <td>0.2</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0.1</td> <td>0.1</td> </tr> <tr> <td>農林26号</td> <td>10.3</td> <td>9.7</td> <td>7.7</td> <td>7.6</td> <td>7.0</td> <td>6.4</td> <td>5.8</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>農林27号</td> <td>1.6</td> <td>2.7</td> <td>6.7</td> <td>14.1</td> <td>20.7</td> <td>25.7</td> <td>30.3</td> <td>33.5</td> </tr> <tr> <td>農林28号</td> <td>22.9</td> <td>18.5</td> <td>15.1</td> <td>12.3</td> <td>12.5</td> <td>10.0</td> <td>8.2</td> <td>6.7</td> </tr> <tr> <td>RK97-14</td> <td>18.0</td> <td>28.1</td> <td>31.7</td> <td>31.8</td> <td>26.0</td> <td>24.1</td> <td>22.7</td> <td>26.9</td> </tr> </tbody> </table> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作付品種割合について、複数品種への分散による自然災害に対する被害軽減が必要 ・株出しを12月に収穫した時に高糖性及び低温発芽性を発揮する品種の改良 ・新品種の適正を見極めていく必要がある 		H29 (実績)	H30 (実績)	R元 (実績)	R2 (実績)	R3 (実績)	R4 (実績)	R5 (実績)	R6 (実績)	F161	5.4	3.9	3.1	2.1	0.8	0.4	0.4	0.1	農林15号	2.2	0.7	2.0	0.2	-	-	0.1	0.1	農林26号	10.3	9.7	7.7	7.6	7.0	6.4	5.8	-	農林27号	1.6	2.7	6.7	14.1	20.7	25.7	30.3	33.5	農林28号	22.9	18.5	15.1	12.3	12.5	10.0	8.2	6.7	RK97-14	18.0	28.1	31.7	31.8	26.0	24.1	22.7	26.9	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き品種構成の検討を行い、品種の分散化による自然災害の軽減に努める ・RK97-14が普及拡大しているが、リスク分散のためにも、ほ場にあった品種の推進・更新を行う ・原種は設置事業の活用により種苗の確保を維持していく
	H29 (実績)	H30 (実績)	R元 (実績)	R2 (実績)	R3 (実績)	R4 (実績)	R5 (実績)	R6 (実績)																																																									
F161	5.4	3.9	3.1	2.1	0.8	0.4	0.4	0.1																																																									
農林15号	2.2	0.7	2.0	0.2	-	-	0.1	0.1																																																									
農林26号	10.3	9.7	7.7	7.6	7.0	6.4	5.8	-																																																									
農林27号	1.6	2.7	6.7	14.1	20.7	25.7	30.3	33.5																																																									
農林28号	22.9	18.5	15.1	12.3	12.5	10.0	8.2	6.7																																																									
RK97-14	18.0	28.1	31.7	31.8	26.0	24.1	22.7	26.9																																																									

③栽培技術の普及等	<p>【実施した取組】</p> <ul style="list-style-type: none">・株出複合管理機の利用促進による増産指導・土壌分析専門家による土作り等の栽培技術の普及 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none">・気象条件により生産量が大きく左右され、栽培技術の普及、向上だけでは対応出来ない場合がある・直近の5年平均が豊作であったことから、慢心による対策遅れが懸念される・土壌診断をする農家が少ないため、必要性を伝え推進していく	<ul style="list-style-type: none">・早期植付・肥培管理・適期の害虫防除等を徹底指導することで、自然気象災害等への被害軽減に努める・土壌診断の必要性を伝え推進していく
-----------	--	--